

関の高校生が今、言いたいコト、知りたいコトを、自分たちでつくりました。



ふうめらん

FREE MAGAZINE
VOUSMELAN
vol.25

読まなかんよ、

えか。



【働く人】税理士/歯科衛生士/研究員/
言語聴覚士/模型店店主

【企画】140年続く老舗佃煮屋の秘密

【高校ニュース】

「 地元の企業のさらなる発展のために 」

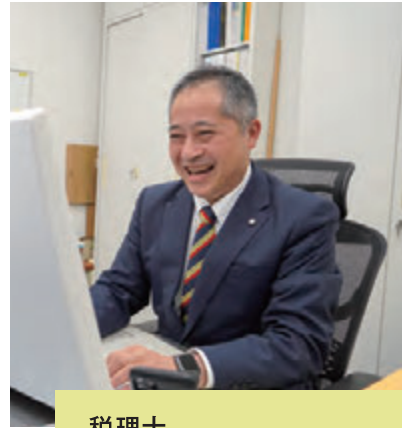
税理士とは

税理士の仕事は企業の各種税金の納税のアドバイスや申告書を作成したり、企業の今後の方向性などのコンサルティンクをすることです。似たような職業に公認会計士があります。関市のような大都市でない地域では仕事内容に大きな違いはありません。近年ではコンピューターが発達して税理士の資格がなくても個人で会計ができてしましますが、古田さんはコンピュータではできない具体的なアドバイスをすることに力を入れています。

今に至るまで

古田さんは28年間税理士として働いています。税理士になりたいと思っただけではなく、税理士として働く父親の影響で、父親の仕事を継ぎたい

働く人にと
取材して
きました



税理士

古田 貴巳さん

進路

関高等学校 卒業
→慶応義塾大学 法学部 卒業
→亜細亜大学大学院法学研究科 修了
→現職

現在の職場

古田会計事務所
関市山王通1丁目6-5
0575-22-9000



いと思ったことだそうです。そのため大学では法学部に入って法律を勉強して、さらに大学院に入って資格を取得しました。大学と大学院時代は東京で生活していました。関市で将来働きたいという気持ちがあつたそうです。また、法律は毎年変わるのでも今でも法律を勉強しているそうです。

取材を終えて

関高 三輪大歩

自分は将来、金融機関で働きたいと漠然と思っていましたが、税理士の具体的な仕事内容を聞いて、やりがいがあると感じるとともに、会計事務所として独立していくことは大変で難しそうだと思います。この取材の経験を活かして、今後自分の将来の視野を広げたいです。

人との関係を大切に

古田さんの税理士としてのやりがいは、自分が関わった会社が大きくなることです。税理士は基本的に顧問契約を結ぶので、お客様とは長い間関わります。大切にしていることは、「相手は何を望んでいる、何が必要か」を考えながら会話することです。そのことによって信頼され、より良い関係を築けるそうです。



大切なことは コミュニケーション

歯は生活

お二人が患者さん1人1人の歯の状態を改善するために大切にしていることはズバリ、「患者さんとコミュニケーションを取ることで」。例えば、挨拶や世間話など。そうすることで患者さんもおもを開いてくれるので、悩みも聞きやすくもなったり、「甘いものをたたくさん食べている」「タバコを吸っている」などバックグラウンドまで話してもらえ、歯を改善するための適切な処置が取れるようになっていたりするそうです。

志したきっかけ

渡邊さんは「親戚の優しいお姉さんが歯医者で働いていたので、歯医者には良いイメージを持っていた」、吉田さんは「将来なりたい職業が定まらず、ただ漠然と親に勧められた医療関係で考えていたが、高校2年生の時に歯並びのコンプレックスから歯の矯正をしたことを思い出し、歯科衛生士に憧れた。



診察中の渡邊さん／取材先提供

歯科衛生士

渡邊 有希さん
吉田 葉月さん

進路

渡邊さん 関商工高等学校 卒業
吉田さん 武義高等学校 卒業
お二人とも →朝日大学 歯科衛生士専門学校 卒業
→現職

現在の職場

えんどう歯科・矯正歯科クリニック
関市西本郷通2-2-17
0575-24-6900
<https://www.endo-dc.net>

自分の通院経験も活かせると思った」とのことです。また、歯科衛生士は国家資格であり、合格すれば一生の仕事が続けられるという点も魅力だそうです。

歯科健診や歯科指導も

普段は患者さんの歯周病の治療や予防、歯の経過観察をしたり、インプラントでドクタースターの補助をしたり、マウスピースのアタッチメント交換、フッ素塗布などをして

います。しかしそれだけではなく、定期的に市内の学校や保育園などに出向いて歯科健診を行ったり、染め出し液を用いた歯科指導などを行ったりしています。他にも2〜3カ月に1回程度、待合室を使ってキッズクラブを開き、歯について普段聞けないことを質問できる場を設けているそうです。

取材を終えて

関高 所明日香

以前は定期健診に行くことを「痛そう」「虫歯があったらどうしよう」など億劫に感じていました。しかし、歯科衛生士の方々が親身になって、患者さんの緊張を少しでもほぐせるように、歯をブラスの状態に変えられるようにコミュニケーションを取るようにしているということを知り、マイナスイメージが払拭されました。今回の取材を通して、自分の将来目指す職業の選択肢が1つ増えました。



命と暮らしをつなぐ

農家ありきの研究所

この畜産研究所では主に豚と鶏の家畜の改良を軸として業務を行っています。

改良とは、「肉がたくさんとれる」「サシがたくさん入っている」などのより良い特長を持つ家畜ができるよう、そのような特長を持つ家畜を見つけて残していくことです。農家の方からの相談や要望を基に研究テーマを設定し、意向に沿った家畜を作るための研究をします。

日々の研究を通して、消費者ニーズに沿ったお肉が、私たちの毎日の食卓に届けられています。

強い豚 誕生！

渡邊さんの研究対象は豚。外国では豚に子どもを多く産ませる改良に力を入れており、その生産力に対抗するために、この研究所ではより良い肉質の豚を開発しています。農家からの要望を受け、病気に強い豚の開発もしています。

近年の豚熱では県内の養豚農家も大きな影響を受け



研究員

渡邊 健太さん

ました。殺処分された豚の中には、他にはない特長を持つ豚もいました。今後は貴重な遺伝資源が失われないよう、受精卵の凍結技術の開発などの研究にも着手しています。

渡邊さんと動物

渡邊さんは動物好きだったこともあって農業高校へ入学し、「家畜」に興味を持ちました。大学在学中、故郷の岐阜県でも豚熱の被害が出たことを受け、豚の研究・開発を通して地元農家の役に立ちたいと思い、県職員の間を選んだそうです。

「一頭一頭に対し真心や愛

取材を終えて

関高 長屋 清子

今回のお話を聞いて、命を扱う仕事の大変さを実感しました。動物も私達人間と同じように病気にもなるし、大切な命を持って生まれてきているからこそ、責任を持って出荷まで見届けたいと話されました。私たち消費者も、いたいた命に感謝することが大事だと改めて感じました。



進路

岐阜農林高等学校 卒業
→ 酪農学園大学 循環農学類 卒業
→ 岐阜県庁にて専門職(畜産)て入庁

現在の職場

岐阜県畜産研究所 養豚・養鶏研究部
関市迫間2672-1
0575-22-3165
<https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24509/>

情を持って接し、いい状態で出荷できるよう最後まで見届ける」ことを大切に世話をしています。農家の方から頼りにされたり、動物の世話に携わったりできることが仕事をする中での喜びだそうです。

「お肉を食べる時にも、そのお肉はたくさんの方の思いや関わりによって生産されるという過程に目を向け、家畜に関わることができる職業があることやその魅力について知ってほしい」とのメッセージをいただきました。

話す、食べる。人の楽しみを取り戻す仕事

目指したきっかけ

言語聴覚士は、病気や障害などで話すことや食べることで、飲むことなどが困難な方のリハビリや補助をする医療専門職です。

三人の方はもともと医療関係の仕事に興味があり、病院での職場体験などを積極的に参加されていたそうです。しかし、言語聴覚士について興味を持ったのは、高校生の時や大学に入ってからだったとのこと。20年ほど前は言語聴覚士になるために学修できる大学がとて少なかつたようですが、現在では増えてきており、言語聴覚士のニーズが増していることが伺えます。

大切にしていること

患者さんと接する際には、表情をよく見てコミュニケーションを積極的にとったり、患者さんのこだわりやそういう人なのかを丁寧に読み取っていったりと、その人らしく入院生活を送れる



言語聴覚士

中) 宇佐見千恵子さん
左) 奥村 祐未さん
右) 二村 美菜穂さん

ように関わることを大切にしているのだそう。

さらに、患者さんの今の能力だけを見るのではなく、「退院後に、社会生活へ復帰できるか? 社会との交流はどう保たれるか?」等々、退院後のことを想定しながら支援することを心がけているそうです。

言語聴覚士の魅力

この仕事をする上で大変なことは、「患者の方の要望と家族の方の理想が違う際に、その差を埋めること」だそうです。差を埋めるため

取材を終えて

関高 林凜南

好きなものや美味しいものを食べる、友人や家族と何気ない会話をすることは、人生においてとても大切なことだと思えます。言語聴覚士はそれらを不自由なく行うことが難しくなってしまう方々の手助けを行うことができ、重要な仕事だと感じました。



進路

宇佐見さん 関高等学校 卒業
→国際医療福祉大学 医療技術学部 卒業
奥村さん 美濃加茂高等学校 卒業
→愛知淑徳大学 コミュニケーション心理学科(当時) 卒業
二村さん 郡上高等学校 卒業
→愛知淑徳大学 健康医療科学部 卒業
3人とも →学校卒業後、新卒で入職

現在の職場

医療法人香徳会 関中央病院
関市平成通2丁目6-18
0575-22-0012 <https://sekichuo.jp>

に、ご家族の方に患者さんのお様子を見せたり、納得してもらえませたり、説明をしたりといった働きかけを丁寧に行っているとのこと。
言語聴覚士をしていてよかったと思うときは、患者さんが食べられなくなったものを食べられるようになって嬉しそうになっているときなのだ、おっしゃっていました。

お客さんと成長していく

ねりや模型店の歴史

ねりやは約400年の歴史をもつお店です。戦後の混乱期にはたこ焼きを売るお店や、下駄を売るお店、お酒を売るお店など様々な商売をしていました。その後、塚原さんの代から、今のような模型店としての商売が始まりました。塚原さんはねりやの16代目として働いています。塚原さんは「忘れることが苦手」だそうで、プラモデルのことに関しては何を聞かれても大概のことは答えることができるため、大手おもちゃ販売店には無い良さがあるみたいです。

お客さんとの会話で学ぶ

現在模型店として働く塚原さんですが、働く前はプラモデルにほとんど興味がありませんでした。塗装のテクニクや組み立て方などを全てお客さんから学び、どんなにマニアックなお客さんであっても、あらゆる話題の8割程度までは話についていけるくらいにまで鍛えたそうです。



模型店店主
塚原 雄飛 さん

進路

関市出身 創価高等学校(東京) 卒業
→創価大学 中退
→ねりやを継ぐ

現在の職場

ねりや模型店
関市本町2丁目9
0575-22-3373
<https://seki-akindo.com/search/detail/79>

今後の目標

今後は店舗を大きくするつもりもなく、このままお客さんと楽しくお話しして、楽しく商売ができれば嬉しいと話されました。
刃物まつりなど、お祭りで多くの人が集まる際に、お店に寄って商品を買ってくれ、新たな関係を作ることができそうです。そこから新たにお客さんが増えることもあろうそうです。

例えば、400種類以上ある色について、どんな時どんな色を使うのかを正確に記憶されています。
そのおかげで話すのが楽しいとお客さんに思ってもらえるようになり、だんだんとお客さんが増えていきました。
そんな塚原さんがお客さんとお話をする時に心掛けていることは誠意を持つて接すること。せっかくならあったお客さんだからこそ楽しんでもらうことを大切にしているそうです。

取材を終えて

関高 後藤 敦朗

とても良い人柄の塚原さん。こんなにも良い人だからねりやさんはいつまでたっても人気ままなんだなと実感することができました。400年以上も歴史があることが個人的には一番衝撃的でした。
まだプラモデルを作ったことがないけれど、ねりやさんでこれ教えてもらいながらプラモデルを作ってみたいと思いました！



百四十年
続く

老舗佃煮屋の秘密

店の名
角佃煮

- 一、甘辛さが絶妙 ご飯によく合う
- 二、魚の顔がハッキリ！食べ応え◎
- 三、おしゃれなギフト用有り



角佃煮店とは

伝統的な製法で地元の川魚を使った佃煮を作っているお店。江戸時代末期の創業、現在の店主の野田卓志さんで5代目。鮎、うるる（ヨシノボリ）、もろこしらはえ（オイカワ）などの佃煮や甘露煮を取り扱っています。

伝統を受け継ぐ

卓志さんは角佃煮店を継ぐつもりはなかったそうです。それよりも、「自宅の内装がこうだったらよかったのに」と感じていたため、家に興味を持ち、大学卒業後はハウスメーカーの営業部へ。自分の裁量で自由に仕事ができ楽しかったのですが、



仕事の量が多くなりハードで

した。そして副産ヘルニアになりました。最終的には退職しました。そしてある時、「従業員が休職するから、お店を手伝ってほしい」と母から頼まれたことを機に、働き始めたそうです。はじめは常連客から文句を言われることがあり、不満を覚えたことが、



段々と仕事に慣れていくうちに、認めてもらえるようになりました。どうしたら美味しくなるのかを追求することも、やりがいになっていったそうです。

食文化を多くの人に伝えるために展示会にも参加していて、ANAの機内食に選ばれたり、料亭で取り扱ってもらえたそうです。（かまき）

素朴と味付けにこだわり

「魚は生きていた物を使い、死んでいたり、煮汁や匂いがおかしいと感じたら使わない。また、基本的に岐阜県産の魚しか使わない。」

「味付けは、しょうゆと酒、砂糖、みりん、生姜のみ！水あめや保存料など一切使わない。」

◎お客さんの目線に立つ「食文化を守り伝える」に重点を置き、作る。

感想

佃煮を作るうえで、少しでも納得できない味だったら店頭には出さない。妥協を一切排除し、おいしさだけを追求求める姿勢に感動を覚えました。これからも、岐阜県の食文化を守り、伝えていってほしいと感じました。

Information

角佃煮店 かどくわしょうてん

関市本町8丁目36番地
☎ 0575-22-0556
9:00~18:00
火曜定休
<http://kadokuwa.com>

関商工と関 YEG の
コラボにより

関商工パン切り包丁を開発

ふうめらん職員が書く！

高校 × 地域 コラボニュース



写真：web サイトより

関商工商業科 2 年生と関 YEG（関商工会議所青年部）がコラボしてパン切り包丁「関流」を開発した。

この開発のために、関商工での授業の実施は 52 回に及んだ。関の刃物の歴史や、刃物製造工場への見学、パン切り包丁の刃の切れ味の比較を学んでから、包丁のアイデアスケッチを行った。包丁のブレードの形や柄の形、素材を考え、難しい要望もあったが、関 YEG の会員企業が試行錯誤して形にした。包丁に描かれたイラストも高校生が考案。ブレードへは最新技術であるレーザープリンターを活用し、カラーでのイラストとなり、これまでにないパン切り包丁が誕生。その後、販売方法や接客の方法も学び、実際に、刃物まつりで 2 日間にわたり販売した。高校生のがんばりにより、2 日間でなんと 400 本の売り上げを達成。

参加した高校生は「なかなか体験できないことができて、関市のことがもっと好きになった」と話した。

買い逃した人は web サイトで購入ができる。 <https://sekishoko.com/products/sekiryu>



関高美術部 本町通りにシャッターアート



関高校の美術部が、本町通り商店街のナカキ金物店（本町二丁目）のシャッターにイラストを描き、商店街に彩を加えた。

これは昨年度、2 年生部員（当時）が Instagram にて、NPO 法人ふうめらんにて「本町の活性化のため、シャッターにイラストを描きたい」と連絡したことから始まった。

ふうめらんは、協同組合せき商連には協力店の選定を、有限会社三輪塗装にはペンキの提供と技術指導を依頼。さらに、美術教室アトリエ波のイラスト技術指導も加わった。このように地域の様々な人のサポートにより、11 月 27 日の日曜に実現の運びとなった。描くのは、関市の鳥カワセセミが鍵を啜って飛び立つ様子。

三輪塗装が事前にシャッターの地の色を整えておき、生徒たちのイラスト制作は当日の未だ寒い朝 8 時にスタート。紙に描いた絵をシャッターに大きく下書きするところから始まった。部員は手分けして制作に取り組み、夕方 5 時過ぎに完成。店主の高井さんは「素敵なイラストができて嬉しい」と話した。



編集後記

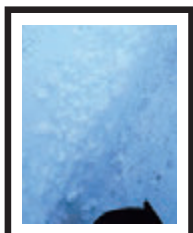
Editor's note

今号のまとめ

～高校生スタッフの近況や取材のウラ話～

高校3年生が引退して、高校1・2年生で作った今号。前号と比べると書き手の各人が成長しているの、気づきますか?? 1回の経験でグンと成長できるのが、高校生の皆さんの強み。さて、高校ぶうめらんはR5年度は何ができるかな?! 何かやりたい人、集まれー♪

あすか ASUKA



毎年、雪が降ったらかまくらを作りたいと思っています。去年はクリスマスイヴに大雪が降った為かまくらを作ろうと試みましたが、5分の1も完成しないうちに断念しました。ということで、今年の目標は「続ける」です。

だいむ DAIMU



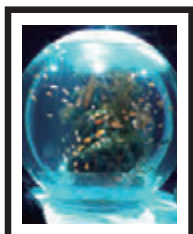
今回の取材は2回目だったので落ち着いてできました。話は変わって1月2日、京都へ初詣に行きました。写真は北野天満宮です。今年は3年生になる年で、ぶうめらんの活動があと少しなので頑張りたいです。

かずま KAZUMA



角嶽さんの取材では、佃煮に対する熱意やこだわりに驚かされました。また、佃煮を試食させてもらったのですが、あっさりとしていてクセがなく食べやすかったです。写真は、修学旅行で撮ったものです。

りな RINA



今回は病院で働く言語聴覚士に取材しました。私も医療関係の仕事に興味があるので、患者さんの生き生きとした様子を守れるような仕事をしたいです。写真は、取材とは関係ないですが、神戸のアトアに行った時のものです。

あつろう ATSURO



今年の初詣でおみくじを引きました。最近吉や小吉などのなんとも言えない運勢が続いていたので大吉を引きたかったけど、中吉でした。来年こそ大吉を引きたいです。

さやこ SAYAKO



今回の取材では初めて動物に関する職業の方のお話を伺いました。命を扱う仕事だからこそ、大切に心を込めて育てるという思いにとっても感動しました。私も来年受験生になるので、自分の夢に向かって頑張っていきたいです。

関高等学校

球技大会

10月5日、2年ぶりの球技大会がありました。ソフトボールやバレー、卓球など6つの球技をクラス対抗で行います。どの試合も熱い戦いが繰り広げられていましたが、特に3年生のソフトボールの決勝戦は白熱してなかなか決着がつかず、予定時間を大幅に超え、選手たちの絶対に優勝するという強い気持ちがちやらにも伝わるほどでした。後半では、全校生徒が応援に駆けつけて応援しました。決着がついた瞬間、優勝チーム全員が輪になって勝利を喜んでいた光景は心に強く残っています。



高校ぶうめらん編集部 林 凜南

写真：学校 Facebook より

長野研修

10月21日、1年生校外研修で長野県へりんご狩りに行きました。りんご農園から自分で好きなりんごを選んで収穫することができたため、「どれを狩ろう」と長い時間考えました。

また、帰り道では中津川の宿場町へ行き、昔の街並みを観光しました。

どちらも普段なかなか触れる機会が無いので、とても良い経験になりました。

高校ぶうめらん編集部 所明日香



関商工高等学校

体育祭

10月13日に体育祭が開催されました。僕は黄団の応援団長として選手宣誓の役を務めました。サプライズとして選手宣誓の後半部分を英語で行いました。新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、保護者に見に来てもらえなかったり、応援合戦が無しくなってしまうたり、とても残念でしたが、それでも各団が力を合わせて団結して頑張ることができました。高校生活最後の体育祭でしたが、完全燃焼することができました。

3年 田中誠也



文化祭

10月27日・28日の2日間、文化祭を開催しました。保護者や地域の方には見に来てもらえませんでした。みんなで新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行い、無事に開催することができたのでとても良かったです。

自分のクラスの出し物は、校訓の「至誠明朗」にちなんで、「至誠迷路」という出し物をして、全校のみんなに喜んでもらうことができました。他のクラスや部活動の発表もたくさん見て回りましたが、体験型の出し物が多く、高校生活最後の文化祭を楽しむことができました。

3年 鮎川晴輝



高校ぼうめらん 部員募集中！

高校ぼうめらんとは

「地元で働くのもアリだな」と
高校時代のうちを知っておいてもらいたいと願って、
まちづくり団体が2016年に結成し、
無料冊子『高校ぼうめらん』の発行をスタート。

1年に3回のペースで発行していて、
現在、冊子は関高・関商工高・関有知高の
3校に通う生徒全員に配布されています。

大事にしていること

- ・いろいろな仕事や生き方と出会うこと。
- ・地域や高校時代を楽しんでもらうこと。
- ・高校の垣根を越え、高校生の力を合わせて作ること。

部員募集中！

お問合せは info@youmelan.com
または インスタ [sekivousmelan](#) まで！

地元で働くのも
よいかも

と思ったら、
今すぐ登録！

高校卒業後も関市・美濃市の 企業情報・就活情報が届きます！

関市では、「地元で就職したい」「関・美濃地
区企業のことを知りたい」という学生のみな
さんをお手伝いするために、企業情報や就職情
報などを提供する『就職情報お届け便』制度を
実施しています。

関市みんなの就職サポートセンター（通称：
関みんサポ）に登録すると、郵送や電子メール（希
望者のみ）で情報をご提供します。提供時期は、
学生のみなさんが就職活動を考える時期です。

サービスの
詳細・登録

関みんサポ サイト
「就職情報お届け便」

フォームから
簡単に
登録できるよ



関みんサポ 学生登録

関有知高等学校

関有知マルシェ

9月10日（土）に本町通り商店街で関有知マルシェを開催しました。本町通りを中心とした8店舗のお店の方に協力いただきながら、地域の方と本町通りを盛り上げようと、グループ毎にお弁当やオリジナルドリンク等の販売を行いました。

私は副実行委員長として、運営の仕事に携わりました。初めての行事だったので、成功するか不安でしたが、当日は多くのお客様が来てくださり、売り切れの商品が出るほどでした。地域の方と大変貴重な体験ができました。

関有知マルシェ生徒副実行委員長
和田 華苗



文化祭

10月25日、26日に文化祭が開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響で3年ぶりの開催となり、全学年にとって初めての文化祭でした。どのクラスも最初は手探り状態でしたが、準備期間になるとクラス全員で展示物を作ったり、舞台練習をしたりするなど、クラスで協力し真剣に取り組む姿が見られました。

当日は文化祭テーマ「スター☆～誰もが主人公～」のように、一人一人が主人公となって楽しむ姿が見られ、大成功の文化祭になりました。

後期生徒会会長 深澤 幸也



ぶうめらん

部員募集中!

✉ info@vousmelan.com

☎ 0575-46-8035

🌐 <http://vousmelan.com/>

発行：特定非営利活動法人
せきまちづくりNPO ぶうめらん
(〒501-3886
関市本町6丁目24番地)

発行人：浅野欽一郎
編集部：後藤和真、林凜南、長屋清子、
後藤敦朗、三輪大歩、所明日香
印刷：株式会社ヤマジ

ヤマジさん、
ありがとうございます!

この冊子は、印刷の株式会社ヤマジさんの
CSR 活動として印刷していただいています。

ぶうめらんの
Instagram

フォローしてね♡

@sekivousmelan



SEKIVOUSMELAN

高校×地域
コラボニュース

関有知マルシェ開催!

昨秋、関有知高校 2 年生によるせきうちマルシェが開催された。会場は本町通り商店街を中心に、本町 BASE、古民家あいせき、せきてらずに置き、高校生が主体となった飲食店やワークショップなど 8 つの店舗を出店した。

裏面ページには生徒レポートあり!



虎屋 伝授 和菓子ワークショップ



これは関市中心街の活性化をテーマとした総合的な探究の時間の取り組みとして行われ、関市内の店舗や事業所と、関有知高校2年生がタッグを組んで9つのチームを結成。

4月から計画や準備、練習などに取り組んできた。

和菓子処 関市虎屋のチームでは、和菓子作りワークショップを開催。授業では、茶巾絞りや、そぼろ付けなどの作り方を店主古田さん直々に伝授してもらい、高校生が和菓子職人になりきって、参加した小学生や観光客にワークショップを実施した。

浅野屋呉服店のチームでは、店主浅野さん指導の下、高校生がゆかたの着付けを習得し、ゆかたレンタルを実施。コーディネートから着付けまで、すべて高校生が運営を行った。

浅野屋呉服店コラボ 浴衣レンタル



また、店舗を担当しない運営チームでは、お客さんがまち歩きを楽しめるよう、関市都市計画課の協力のもとで QR コードを使ったスタンプラリーを実施。スタンプラリーを目的に来場した親子連れも多くあった。

都市計画課コラボ スタンプラリー



開店直後はごちない様子だった高校生も、時間がたつにつれ道行く人に自ら声をかけ呼び込みを行い、スムーズに受付できるよう工夫するなど、慣れない店舗運営にも臨機応変に対応。関有知マルシェを通して関市中心街のにぎわいに一役買いつつ、活躍する姿を見せた。

(ぶうめらん職員)